

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	財務会計論Ⅰ、経営財務論Ⅰ
教科書	「図でわかる会社法」柴田和史(日本経済出版社)
補助教材等	プリント配布
学習上の留意点	
<p>この科目は、企業を法的な視点から考察するものです。経済学、経営学、会計学等の企業を別の観点から考察する科目との相違を意識して学習すること。また、法的な独特な言い回しなどになれること。授業中は、寝ない。しゃべらない。メリハリが必要です。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>専門科目に入ると、初めて聞く内容が増えてきて理解するのも大変になります。この講座では、教科書に出てくる難解な内容をできるだけかみくだいて説明したり、身の回りの具体的なものに例えて説明することを心がけて授業を行う予定です。進む進度もすこしゆっくりめに設定しています。</p>	

回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)		
1	0 ガイダンス 1 会社の種類 ・会社の定義、持分会社	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・会社という事業形態のメリットを理解できる。 ・各持株会社の構成員の権利、義務、責任の相違を理解できる。 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。		
2					
3	2 機関 ・取締役 ・株主総会 ・監査役	<ul style="list-style-type: none"> ・機関の分化について理解できる。 ・代表取締役の権限について理解できる。 ・取締役会の役割について理解できる。 ・取締役の義務について理解できる。 ・株主の権利について理解できる。 ・株主総会の役割について理解できる。 ・取締役をモニタリングする制度を理解できる。 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。		
4					
5					
6					
7					
8	中間試験				
9	答案返却・解答解説 3 株式			<ul style="list-style-type: none"> ・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・株式の種類、株式単位について理解できる。 ・株式の譲渡について理解できる。 ・自己株式について理解できる。 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
10					
11	答案返却・解答解説 4 資金調達 5 配当	<ul style="list-style-type: none"> ・新株発行、社債の発行について理解できる。 ・新株予約権について理解できる。 ・配当規制について理解できる。 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。		
12					
13	6 設立・解散 7 組織再編	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の設立の流れを理解できる。 ・会社の解散・清算について理解できる。 ・合併、会社分割の手続きについて理解できる。 ・株式交換、株式移転について理解できる。 	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。		
14					
期末試験					
15	答案返却・解答解説 授業改善アンケートの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 			
総学習時間数			45時間		
講義			30時間		
自学自習			15時間		